

学者・研究者への信頼のトレンド 1999-2012

科学観・高等教育観の計量社会学

京都大学 太郎丸 博

1 学問の政治化と学者信頼のトレンド

近年、政治的な保守主義と学問との対立が目につくようになってきている。このような特定の政治的な党派と科学／学問の対立を科学／学問の政治化というが、米国では 1980 年代頃からこの科学の政治化が大きな問題になっている。日本でも歴史修正主義や安保関連法案をめぐる、歴史学者や法学者と安倍政権の周辺のあいだに対立があったことは記憶に新しい。

米国でこのような科学の政治化が生じていることは、調査結果から明らかであるが (eg. Gauchat 2012, Hmielowski, et al. 2014)、日本で米国と類似の現象が起きているかどうかははっきりしないし、起きていたとしてもその性質は米国とは異なっているだろう。

この研究では、一般の人々を対象にして、学者や研究者への信頼度が米国同様に低下しているのか、特に「保守」層でそのような変化があるのか明らかにする。

2 データ

JGSS 予備調査 2 回目 1999 と JGSS 調査 2000-2003, 2005, 2006, 2008, 2010, 2012 を用いる。これらすべてのデータは、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから提供を受けた。従属変数は学者・研究者への信頼で、用いる選択肢は 1 = とても信頼している、0.5 = 少しは信頼している、0 = ほとんど信頼していない、である (わからない、無回答は欠損値)。また、大企業、中央官庁、労働組合、ほか 13 の機関への信頼度の平均 (その他平均) との差 (相対的学者信頼度) も用いる。

3 結果

図 1 は男女別に学者とその他の機関に対する信頼度の推移を示している。その他の諸機関への平均信頼度が微増しているのに対し、学者に対する信頼度は波動しつつ微減している。線形回帰すると、学者信頼度が毎年平均.001 ずつ減少しているのに対して ($p = .03$)、その他平均は.003 ずつ増加している ($p = .00$)。

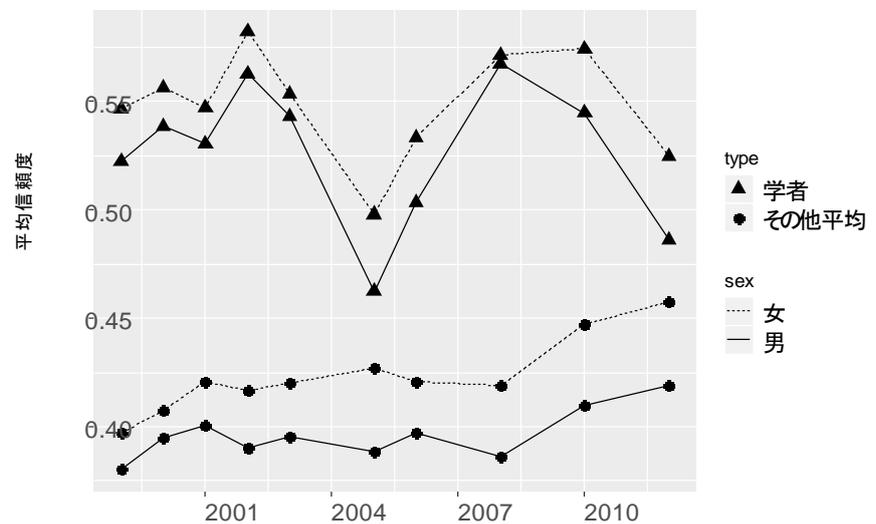


図 1 学者とその他の機関への平均信頼度のトレンド

4 結論

保守／革新と関連する態度で分類した場合の結果など詳しい分析結果は当日紹介する。

文献

- Gauchat, G. 2012. "Politicization of Science in the Public Sphere: A Study of Public Trust in the United States, 1974 to 2010," *American Sociological Review*. 77 (2): 167-187.
- Hmielowski, J. D., et al. 2014. "An Attack on Science? Media Use, Trust in Scientists, and Perceptions of Global Warming," *Public Understanding of Science*. 23 (7): 866-883.